

秋冬 autumn - winter  
2018

vol.

23

# 春風新聞

shumpu shimbun



春風社

Shumpusha Publishing Co., Ltd.

〒220-0044

横浜市西区紅葉ヶ丘 53  
横浜市教育会館 3F

TEL (045)261-3168

FAX (045)261-3169

www.shumpu.com

✉ info@shumpu.com

【図書目録】 哲学・思想・宗教 4 / 文芸評論 4 / 文学 6 / 写真・音楽・芸術 7 / 詩歌・俳句 7 / 観光・環境・自然・健康 8 / 立教大学人文叢書 8 / 横浜市立大学新叢書 8  
東洋英和女学院大学社会科学叢書 8 / 総記・辞典・事典 8 / 心理 8 / 言語 9 / 教育 9 / 社会・歴史 10 / 政治・経済 12 / 人類学 12 / シリーズ来たるべき人類学 12  
【連載】 日々の風 暮らしのなかの哲学 長谷川宏 4 / 翻訳ピンチ! 中条省平 6 / 帰ってきた mini 大河 しりあがり寿 7 / 英文学にデコピン 阿部公彦 8 / ポストモダンの処方箋 白井聡 10  
【コラム】 自著を語る 5 / 横浜 9 / 書評 11



我等幼学年、

学に進まんと欲し、

尤も重んずる所は

其の志に在り。

志にして

之れ真確ならざる、

百年逆行して終に頽る。

ことば  
『新井奥達著作集』第7巻四五〇頁  
『おうすいポケット 新井奥達語録抄』二七四頁より  
絵  
矢萩英雄 『cate time』二〇一六年



二〇一八年九月一日、横浜市教育会館にて、  
港の人代表の上野勇治氏と春風社代表の三浦衛が対談しました。その模様をお伝えします。

特集

# 本づくりの根

赤羽十鎌倉―桜木町



上野勇治



三浦衛

ルを社名にしたことで、支えにも、  
励みにもなっています。  
三浦 この詩集は「今」から生み出さ  
れてくる筆のようです。今、今、今  
と、「今」の連なりがよく伝わって  
きます。

## 二人の出会い

三浦 春風社は一九九九年十月に横  
浜で創業し、二〇一八年十月一日か  
ら二十年目に入ります。港の人は  
一九九七年四月に鎌倉で創業しまし  
た。

上野さんとの出会いがなければ、  
僕は出版の仕事に携わることにはな  
かったと思います。仮に上野さんが  
出版以外の仕事に携わっていたとす  
れば、僕もその仕事に就いていたか  
もしれない。それくらい上野さんに  
心酔していました。今日お話できる  
機会をいただいて本当にありがたい  
です。

港の人のウェブサイトに、「わ  
たしたち「港の人」は、詩・文学を  
中心とした人文書と、日本語学・社  
会福祉学などの学術文献を手がけて  
いる出版社です。いま、生きる、こ  
この「切実」を問う出版社であるこ  
とを願っています」とあります。春  
風社と同じく学術書も手がけておら  
れますが、詩集・歌集、文学にウェ  
イトがかかっていますね。

港の人の本は一冊一冊が工芸品の  
ようです。工芸品は写真で見ただけ  
ではわからない。手に取って初めて  
手触りがわかる。まず本のしつかり  
した内容があり、それにふさわしい  
外装丁意を意図する。そういう本づ  
くりをされていると思います。

上野さんと僕が出会ったのは竹内  
敏晴さんが主宰されていた竹内演劇  
研究所です。広島出身の上野さんが

竹内演劇研究所に入られた経緯から  
お話いただけますか。

上野 わたしは二十五歳のときに上  
京してきました。それまでは半年間、  
大阪の印刷会社で働いていました。  
創業したばかりの会社で、社員は三  
人。そこではじめて会社員となりま  
した。その年の夏に、横浜にいた友  
人に会うために上京し、詩人の北村  
太郎さんともお会いしました。その  
とき話の流れで、こつちに来ないか  
といわれて、会社を辞めて上京する  
ことにしたんです。それまでは何を  
していいかわからず、モラトリアム  
という感じでした。

東京では上田美佐子さんとも出会  
いました。上田さんはいま両国で  
シアターXの芸術監督・演劇プロ  
デューサーをされています。出会っ  
たころ、上田さんに芝居が面白いか  
らみないかといわれ、いろいろみさ  
せていただきました。ある劇団の立  
ち上げ公演がありました。いまでも  
よく覚えていますが、チエーホフの  
「かもめ」を上演するという。あな  
たは暇そうだから演出助手をやっ  
てほしいといわれて、面白そうなの  
で参加しました。台詞の読みから、立  
ち稽古、そして公演の最後までずつ  
と演劇の場に立ち会うことができま  
した。演出助手というのは演出家と  
役者のあいだにいるような存在で、  
演出家、役者がぶつかり合う葛藤を  
目の当たりにした。そこで何を発見  
したかという、これは妄想でし  
かありませんが、演劇のなかに「世  
界」がみえた。そこで「世界」に出

会ったわけですか。これが演劇なの  
と震え、感動した瞬間がありました。  
奥手ですが二十六、七のときに演劇  
がやりたいと思ひ、竹内敏晴さんの  
著書『ことばが劈かれるとき』を読  
んでいましたので、演劇を習うなら  
竹内さんのところでと思ったわけ  
です。

研究所に通いながら、フリーで編  
集者などをしていたが、結婚  
し、二人目の子どもが生まれたとき  
に「あんな、何やってるの」と妻に  
いわれて(笑)、演劇を断念し、出  
版社に入りました(笑)

三浦 上野さんも僕も神奈川県に住  
んでおり、中野坂上にあつた演劇研  
究所から一緒に帰宅することが多く、  
いろいろなことを話しましたね。フ  
リージャズの阿部薫やステイヴ・  
レイシー、八島太郎の絵本『からす  
たろう』とか。上野さんが教えてく  
れたものはどれも面白かった。

あるとき、帰りの電車の中でドス  
トエフスキーの『白痴』の話をしま  
した。吊り革につかまりながら、二  
人して肩間にしわを寄せて話してい  
たと思います。ふと会話がやんだと  
き、すぐ近くにいた酔っぱらいのオ  
ヤジが、僕たちに寄りかかるとい  
揺れながら、じーっと見ていました。  
絡まれたわけではありませんが、そ  
の光景が印象的で忘れられません。  
自分がいかに強烈に感じ、真面目に  
考え、言葉にしても、他人から見た  
ら滑稽でしかないことがある、とい  
うことに気付いた。さきほど上野  
さんが芝居を通して「世界」に出

た」と仰いましたが、僕にとつては  
そのときが、ちよつと世界に触れた  
瞬間だったかもしれません。  
当時僕は高校の教師をやりながら  
演劇研究所に通っていました。赤  
羽にある大空社という出版社で仕事  
をしていた上野さんに声をかけても  
らい、教師を辞めてそこに行きまし  
た。入社してから上野さんに多くの  
ことを教えてもらいました。

上野さんが大空社から独立し、港  
の人を創業された後も僕はそこに身  
を置いていて、一九九九年に会社が  
倒産。次の日、赤羽の居酒屋で同僚  
と飲みながら酒の勢いでつくつたの  
が春風社です。

三浦 港の人の本づくりについて伺  
います。  
まず、北村太郎という詩人の『港  
の人』(思潮社、一九八八年)という  
読売文学賞を受賞した詩集に、未収  
録の詩を加えたものです。

三浦 昨年(二〇一七年)が港の人創  
業二十周年でしたので、その記念に  
『港の人』を復刊させていただきました。  
社名もこの詩集に由来してい  
ます。「港の人社」とかよくいわれ  
ますが「社」は付きません。  
三浦 北村さんとの出会いについて  
教えてください。

上野 さきほど話しましたが、わた  
しは二十五歳で上京してきました。  
横浜にいる友人宅に遊びに行つたら  
北村さんというおもしろい詩人がい  
るからと紹介されました。北村さん  
のアパートに行つて三人で話してい  
るとき、その友人が「こつちに来な  
いか?」といつてくれ、大阪に帰つ  
て辞表を出して上京してきたわけ  
です。

北村さんは一九九二年生まれでわ  
たしの父よりも年上ですが、若いわ  
たしたちに対してとてもフランクで  
清々しく、温かい方でした。決して  
偉ぶらず、それでいて博識でした。  
北村さんから知人が勤めていた作品  
社という出版社の仕事を紹介してい  
ただき編集の仕事を始めました。北  
村さんが一九九二年にお亡くなりな  
られるまでずつと、いろいろな教え  
ていただいたり、面倒をみていた  
きました。

三浦 『北村太郎の全詩集』(飛鳥新  
社、二〇一二年)という本に上野さ  
んが「柏葉の北村さん」という文章  
を寄せられ「詩人とはこんなにも精  
神のありようが柔らかいものなのか  
と思つた」と書かれていますね。年  
齢を感じさせない柔らかさが会話の  
中に感じられたのでしょうか。

上野 そうですね。もともと北村さ  
んは、鮎川信夫、田村隆一、吉本隆  
明らと一緒に戦後詩をつくりあげた  
「荒地」というグループの一人です。  
た。鮎川さんは途中で詩をやめられ  
ましたが、北村さんは晩年を経れば  
経るごとに、詩の凄みや鋭さが増し  
ていきました。「荒地」には旧態依  
然とした詩を否定して、新しい自分

たちの感性や思想を表現するものと  
して詩をつくつていくという意志が  
あつたと思います。その意志を最後  
まで受け継いで、書き続けたのが北  
村さんなのではないでしょうか。言  
葉の革新を絶えず試みていたのでは  
ないと思います。

北村さんがもつとも信頼していた  
のは鮎川信夫さんでした。鮎川さん  
がお亡くなりになったとき、ショッ  
クでとても深く悲しまれ消沈されて  
いたことを思い出します。北村さん  
の第一詩集『北村太郎詩集』(思潮  
社、一九六六年)に鮎川さんが解説  
を寄せていて、北村さんはふたつ  
の不幸(「時代の不幸」と「個人の不  
幸」)をもつていると書いています。  
ひとつは戦争で多くの仲間を失つた  
不幸、もうひとつは潮干狩りで妻子  
をいっぺんに亡くされた不幸です。  
ふたつの不幸を経た北村さんの詩は、  
重さを失つて軽くなるざるをえない  
だろうと鮎川さんは書いていました。

北村さんのことも、北村さんの詩の  
ことも、いちばん深く理解していた  
のは鮎川さんだとわたしは思ってい  
ます。

『港の人』もむずかしい言葉では  
なく平易な言葉で書かれています。  
しかし誰にも真似られない、レト  
リックではない、北村さん独自の死  
生観からの境地を展開しています。  
当時、横浜を散策しながら街の情景  
を詩に書かれています。そこから  
突き抜け、照らす世界がある。それ  
がわたしたちに響くのではないかと  
思います。こういった詩集のタイト

ルを社名にしたことで、支えにも、  
励みにもなっています。  
三浦 この詩集は「今」から生み出さ  
れてくる筆のようです。今、今、今  
と、「今」の連なりがよく伝わって  
きます。

個人的に思い出したのは、高校教  
師を辞めて大空社に入る前のほんの  
短い期間、埼玉の予備校で講師をし  
ていたときのことです。控室で  
七十過ぎくらいの先生から「君くら  
いの歳の人からは、僕なんか、す  
でに現役を退いた過去の人に見えるん  
じゃないか?」しかし君、生きるん  
じやないか?」といわれ、

こから声を発している。それはふた  
つの不幸が、絶えず消え去つていな  
いということなのだと思ひます。亡  
くなるまで、ふたつの不幸、死を抱  
えていたのだらうと思ひます。そし  
て躓くわたしたちを見守つてくれて  
いるような気がします。そのことが  
三浦さんのように受け止められるの  
かもしれないですね。

三浦 港の人の本づくりについても  
お話しただきたいと思ひます。  
北村太郎さんの『港の人』付単行  
本未収録詩』は函入りの単行本で、  
港の人の二十周年記念の刊行物。も  
う一つ、宇佐見英治さんの『言葉の  
木蔭 詩から、詩へ』という本です。  
どちらも工芸品のような佇まいがあ  
りますね。特に気に入っている書体  
はあるんですか。

上野 イワタ明朝体オールドが好き  
です。このフォントは冷たい印象を  
与えるようですが、すっきりと洗練  
されて読みやすく、多くの本に採用  
されています。  
三浦 書体、天地左右の余白、行間

などからも独特の雰囲気を感じます。レイアウトはどういうふうなされていきますか。

**上野** デザイナーではなく編集者としてですが、組版もしています。読みやすく、わかりやすい本をつくるのが大切なことです。著者から原稿を預かったとき、その原稿をどのように捉えるか。組版というものはそこから組み立てていく作業だと思っています。わたしは、原稿というものはそもそも読めないものだと考えています。「読めない原稿」を「読める本」に仕立てていくということが、わたしにとつての組版なんです。原稿は読めないものだという感覚が、わたしにはあるのです。

**三浦** あまりピンと来ない……

**上野** 頭で読むのではなく、身体で読むほうがいいということかもしれません。原稿はカオスだと思う。編集者がそれを編んで読めるようにする。本の設計図をつくっていく。

あるとき、改行ってなんだろうと思つたんです。改行には二種類あります。ひとつは強制改行、もうひとつは自然改行です。強制改行というのは、著者が自分の意志で改行をすること。自然改行は、決められた一行の文字数に従って自動的に起きる改行です。ですが決して「自然に」起きるのではなく、そこには意志が働いて、一行の文字数が決められている。その意志というのは、編集者の意志なのではないかと思うのです。編集者の意志が、一行の文字数と一行の行数を決め、そのことによつてどういう秩序をつくっていくのかを問われるのだと思います。



『港の人—付単行本未収録詩』  
(北村太郎 著、港の人、2017)



『言葉の木蔭—詩から、詩へ』  
(宇佐見英治 著／堀江敏幸 編、港の人、2018)

もうひとつ、行の発見というのがあります。たとえば歌集をつくる場合ありますが、頁のなかになくなく配置するだけでは、歌集は成立しません。無数の行のラインのなかからその歌集にあらう表現としての行を探し出すという組版の作業は、わたしにとつては、歌集を編むこと自体と大きく重なっているのです。そのことをわたしは「行の発見」と呼んでいるのです。

歌集にせよ詩集にせよ、まずは読めないものを読んでいく。そして原稿が発熱しているものを感じ取り表現していく。時間を経てさらに原稿を読みこんでいくと、そのとき受ける世界が最初とは違うなと思う場合がある。この場合もう一度、一から組版をやり直す。それを繰り返すことで行を発見するんです。この本に一番あらう表現はどの行なのか、それを掴まえるのが編集者の仕事なのではないでしょうか。ただし本になつたものが絶対ということではありませぬ。時が移ろいゆけば、わたしの感じ方も変わるし、社会の状況も変わりますから。それでも現在の最上な表現を発見して、本に定着させていきたいと試行錯誤しています。

**三浦** 『言葉の木蔭 詩から、詩へ』にも上野さんの意識がよく出ていると思います。サブタイトルの読点「。」も意識して付けたわけですね。**上野** 宇佐見英治さんの生涯を考えてつけた副題です。宇佐見さんは文筆家、思索家として戦後を歩まれました。辻まことや矢内原伊作などと親交しながら、明澄な文章を修練し

てひとつの世界をつくられた。彼の出発点は短歌でした。宇佐見さんは歌人であり、詩人なのです。帝大を繰り上げ卒業で戦争に征かれ、東南アジアで悲惨な体験をされて、命がらから復員してきました。そのとき、短歌のありかたに疑問を持たれた。翼賛体制のなかで詩人や歌人がこぞつて非人間的な、戦意高揚のためのうたをつくつて、多くの若者を無残な死に追いやつた。そのことに非常に憤りを持たれて、一度短歌をやめてしまった。そして、集団的狂気に抵抗しようとする日本語を築かなければならないと散文に身を置かれました。

『戦中歌集 海に叫ぶ』(砂子屋書房)というのは、タイ、ビルマを軍中につくられた歌集なのですが、五十年後、一九九六年に公刊されました。日本がまた戦争に傾いているという時代のおみやげの雰囲気を感じられて、この歌集を世に問うたわけです。それから晩年に「詩」にかえつていき、辞世に「骸骨となりてまろやか世にいたり」をよみ、世を去つていった。そういつた生きようから「詩から、詩へ」としました。「詩」を一度断念して、再び「詩」にかえるまでに戦後の長い時間を要しました。文筆家として旺盛な執筆時代にあたりますが、新しい散文を創造され、三浦雅士、堀江敏幸といった文学者に大きな影響を与えました。

宇佐見さんは戦争に征つたときに二冊の本を持っていました。『万葉集』と、もう一冊は『立原道造詩集』です。なぜ立原道造の詩集を持つていったのか。それは、個人としての生をまっとうしたいという思いからだつた。そこに感動しました。**三浦** この本には柱がないですね。**上野** 柱というのは何なのかというのを考えるんです。本の決まりごとを考えると配置するのでしたら、それは違うと思う。柱にはその頁が該当する章名などを記した見出しとしての役割があります。たとえば辞典などではあれば便利ですが、この本に柱はいらないと思いましたが、大事なことは文章と対峙することです。そこに柱という見出しは不要だと考えました。その本にとつて何が必要なのかということ、その都度考え直しながら本を組み立てていくことが大切だと思つています。

### 新たな流通形態の模索

**三浦** 「かまくらブックフェスタ」について伺います。明治期に登場したとされる委託販売制はその後、本の流通の基盤になってきましたが、近年では既存の取次経由ではない流通形態も模索されています。港の人の始めた「かまくらブックフェスタ」もその一つですね。

**上野** 二〇一一年秋に「かまくらブックフェスタ」を始めました。鎌倉を拠点にして出版活動を行なっていますので、秋の本祭りというか、本を通じて地元の人との結びつきを深めていきたいということが一つの大きな動機です。また本のつくり手と読者が顔を合わせて、本や活字の世界を語り合う場ができれば、という希望もありました。出版社どうし

の横の繋がりをもつなど、売上の額だけでなく目に見えない成果を大事にしていきたいと考えています。アノニマ・スタジオという出版社が東京で開催している「ブックマーケット」が、こういった本のイベントのはしりではないかと思つています。それをヒントにして鎌倉でもできないかと思ひ始めました。ゲストを招いて本や文学にまつわるトークイベントも行ない、地元だけでなく東京などからの客も含め、毎年二日間て千人近い来場者が集まっています。

**三浦** 最初は何社で始められたんですか？  
**上野** 出版社八社と地元の本屋「たらば書房」さんにも参加してもらいました。最初は妙本寺境内にあるギャラリーを使って、一メートルもないブースに仕切つてやりました。参加する出版社は入れ替わりつづ、昨年は十四社でした。今年も例年使っている由比ガ浜公会堂の予約が取れず止めようかと思つていたところ、京都での開催の話をしていただき、京都の恵文社一乗寺店で行ないました。東京や京都、大阪の出版社から十社の参加が決まっています。

のだと強調されています。そのことを踏まえて考えると、学術や学問というのは、カント研究のように、例えば百年二百年の長いスパンで考え、勉強し、また習得して、今日や明日を生きる力にしていこうということではないかと思つています。そういうイメージを持つて、これからは春風社の本をつくつていきたい。港の人のこれからを最後に話したいだけです。

### それぞれの本づくり —学術書と詩集—

**三浦** では僕の方から春風社の『石巻片影』と『カント伝』の二冊を紹介しつつお話ししたいと思います。**上野**さんは、最初に申し上げたとおり、僕が出版の仕事に就きつつか

けを与えてくださった方です。ですから、僕にとつて港の人は常に意識する出版社の一つです。上野さんの本づくりを事あるごとに勉強させてもらい、参考にしながら、では春風社ほどのようなあり方があるのかということ意識してきました。春風社としては学術書を中心にするということをますます打ち出していこうと思つています。

『石巻片影』を刊行したのは、東日本大震災がきっかけでした。学問・学術が研究室の外に出たときに、どう人を裨益するのかわからないことをいつも考えていきたいと思つています。

もう一冊挙げた『カント伝』は、マンフレッド・キューンというボストン大学名誉教授が書いたものの翻訳です。カントは一七二四年に生まれ、一八〇四年に八十歳で亡くなつています。アカデミー版『カント全集』は亡くなって百年近くたつた一九〇〇年に刊行が開始されて、まだ完結していません。

教育哲学者・林竹二さんの『若く美しくなつたソクラテス』(田畑書店、一九八三年)という本に、「知識による救い」という論考があります。知識によつて人間は救われるのか、と問われています。人間は、外にあるものを習得して自分の生きる力にすることができ、それが他の動物と違うと林さんは仰つた。例えばビーバーは枯枝などを利用して非常に精密なダムをつくるが、それは生得のものであり、習得した技術ではない、人間は外にあるものを習得して今日や明日を生きる力にできる

情熱家で、直情家だつた生き方も、賢者の仕方もある。『カント伝』(マンフレッド・キューン 著／菅沢龍文・中澤武・山根雄一郎 訳、春風社、2017)

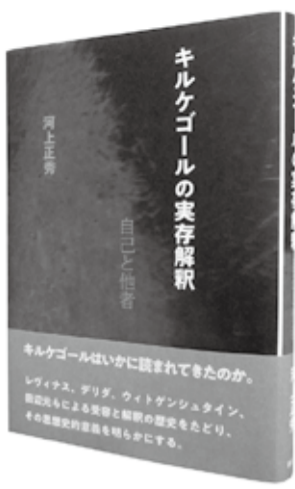


『石巻片影』(三浦衛 著／橋本照嵩 写真、春風社、2017)



『カント伝』(マンフレッド・キューン 著／菅沢龍文・中澤武・山根雄一郎 訳、春風社、2017)

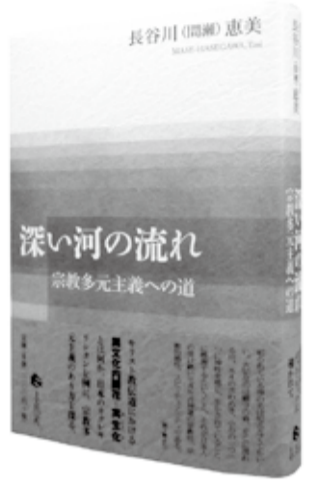
# 哲学・思想・宗教



## キルケゴールの実存解釈 自己と他者

河上正秀 (筑波大学名誉教授)

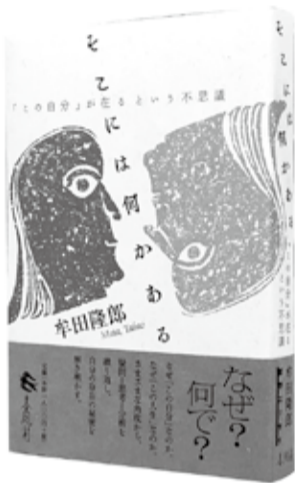
キルケゴールはいかに受容されてきたのか。レヴィナス、デリダ、ウイットゲンシュタイン、田辺元らによる解釈の歴史をたどり、その思想的意義を明らかにする。  
A5判上製・二六四頁 定価(3500円+税)  
ISBN 978-4-86110-597-5



## 深い河の流れ 宗教多元主義への道

長谷川(間瀬) 恵美 (桜美林大学准教授)

キリスト教伝道における異文化内開花  
＝実生化(みしようか)とは何か。日本  
のカクレキリシタンを例に、宗教多  
元主義のあり方を探る。  
四六判並製・二九頁 定価(2200円+税)  
ISBN 978-4-86110-604-0



## そこには何かある 「この自分」が在るといふ不思議

牟田隆郎 (元聖学院大学教授)

なぜ「この自分」なのか。なぜ「この人生」なのか。さまざまな角度から、疑問・思考・分析を繰り返して、自分の存在の秘密を解き明かす哲学エッセイ。  
四六判並製・三三頁 定価(1800円+税)  
ISBN 978-4-86110-612-5

人間形成としての教養―ハンガリー、フィンランド、日本におけるドイツ的受容と将来展望 高橋輝暁(立教大学名誉教授) 編  
「教養」のあり方を、ドイツをはじめとする思想史や教育史、文化概念の問題、天野貞祐の理念などから多角的に考察。  
ISBN 978-4-86110-596-8 ¥2000

哲学断章―存在・ことば・光 北岡崇(元福山女子大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-583-8 ¥3700  
カント伝 マンフレッド・キューン 著/菅沢龍文・中澤武・山根雄一郎 訳  
ISBN 978-4-86110-479-4 ¥9000

教えることの哲学 ジョン・パスモア 著/小澤喬(東京理科大学名誉教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-376-6 ¥4100  
奥達論集成 春風社編集部 編  
ISBN 978-4-86110-424-4 ¥2700  
おうすいホケット 新井奥達語録抄 三浦衛・コルダニエル 編 白表紙 ISBN 978-4-86110-454-1 黒表紙 ISBN 978-4-86110-453-8 各巻 ¥2200

揺れ動く「保守」 現代アメリカ文学と社会 山口和彦(上智大学准教授) 編  
中谷崇(横浜国立大学准教授) 編  
トランプ現象に見られる混沌と分裂の時代に、文学はどう対峙するのか。トニ・モリスンからドン・デリーロまで、現代アメリカ文学に描かれた「保守」なるものの諸相について多角的に考察する。  
四六判上製・三〇〇頁 定価(3500円+税)  
ISBN 978-4-86110-609-5

エミリー・デイキンソンを理詰めで読む 新たな詩人像をもとめて 江田孝臣(早稲田大学教授)  
選りすぐりの37篇の原詩に対して、一切の先入見を排し、徹底して字義と文法に焦点を置いてアプローチ。詩の表層下に二層、三層と巧妙に隠された意味の深層を探り、知られざるデイキンソン像に迫る。  
四六判上製・三三頁 定価(3000円+税)  
ISBN 978-4-86110-605-7

外見の修辭学―九世紀末アメリカ文学と人の「見た目」を巡る諸言説 福井崇史(國學院大学准教授)  
頭蓋、顔貌、衣服、肌の色といった人の外面的要素にさまざまな意味を付与し、あるいは政治化して表象した文学作品を読み解く。  
ISBN 978-4-86110-581-4 ¥4000  
クロテスク・美のイメージ―ドムス・アウレア、ヒラネージからフロヘルまで 武末祐子(西南学院大学教授)  
ルネサンス期に発掘されたネロ帝の黄金宮からピラネージの廢墟画を経て、19世紀フランス主義文学へ。クロテスクの美をたどる。  
ISBN 978-4-86110-588-3 ¥3200

# 日々の風

長谷川宏

暮らしのなかの哲学

## 18 二葉亭四迷の近代性

『日本精神史』近代編の執筆に向けて、明治以降の政治、社会、思想、文学、芸術にかんする資料を読み漁っている。  
十五年にわたるアジア・太平洋戦争が日本近代の大きな節目になることは争われない。これまで読んだ本は、その多くがこの無謀・苛酷な戦争以前に属するものだが、明治維新から満州事変までの七十年あまりを精神史として概観するとき、明治中期から後期にかけて活動した二葉亭四迷が、文学の面でも実生活においても独特の近代人として立つすがたが強く印象に残る。  
文学も、勤め仕事も、家庭生活も思うようにいかず、回想記や書簡にも失敗や挫折や自嘲の苦さが随所にのぞくことが、かえって、時代を誠実に生きた類稀な近代人の面影を伝えてくれるように思える。  
二葉亭の生きた時代は、欧米列強がアジア各地に帝国主義的侵略の手を伸ばすのに対抗しつつ、日本が近代国家としての形をしいに確立していく時期に当たっていて、知識人は国家有為の人物として働くことをみずから望み、まわりからも期待されていた。知的で

あることは立身出世や社会的栄達と切り離せなかった。  
二葉亭としての風潮と無縁ではありえず、若い頃には陸軍士官学校の入試を三回も受け(いずれも不合格)、またロシアの南下を防ぐ仕事に就くべくロシア語を学んでもいる。が、その一方、そういう自分をやや離れて冷静に見つめる目が二葉亭にはあった。社会常識が価値あるとするものをそのまま肯定しない、肯定しえない文学者の目だ。疑問なく立身出世の道を歩む本田昇と、時代にうまく乗れなくてぐずぐずと思ひ悩む内海文三の対比(『浮雲』)は、その目があったこそ生まれたものだった。  
文学者の目は時代の荒波にもまれつつ持続し、いつしか二葉亭の生きた思想的拠点となっていく。拠点からつねに発せられるのは、自分はいかに生くべきか、という、立身出世主義の対極にある問いだった。  
問いをおのれの内面にしつかりとかかえこんで二葉亭は四十五年の波乱に満ちた生涯を生き切ったのだった。  
(哲学者)

# 文芸評論



『フイネガンス・ウェイク』のプロローグを読む ダーとゴシックの修辭学 武田悠一(元南山大学教授) ポカホンタス物語から、ポー、ホーソン、ヘミングウェイ、「羊たちの沈黙」まで。ジェンダーとゴシックの観点から、排除と抑圧の構造を明らかにする。  
ISBN 978-4-86110-569-2 ¥3500

### 自著を語る

小池剛史 (訳)  
ジャネット・デイヴィス (著)  
『ウェールズ語の歴史』



大学時代に交換留学でウェールズのランピターに1年間滞在したことが、ウェールズ語との出会いです。牧師さんの家庭でお世話になり、礼拝に参加してウェールズ語で賛美歌を歌ったりもしていました。本格的にウェールズ語研究を志すきっかけとなったのは、在外研究で滞在されていた、金城学院大学教授(1992年当時)の水谷宏先生との出会いです。帰国後は進路に迷った時期もありましたが、先生の助言を受け、大学院で学位取得を目指して英語学を専攻しつつ、毎月夜行バスで名古屋に通い、先生からウェールズ語学研究の薫陶を受けました。

ウェールズの文化の中心は言葉です。本書の著者は、ウェールズ人であることの真髄にウェールズ語があると述べています。まさにその通りなのですが、重要なのは、言葉が単に国家の象徴として、あたかもガラスケースに入れられた展示物のように扱われているのではなく、人々の日常生活を充実させる言葉となっているということです。その証拠に、ウェールズ語は牧歌的な農村部だけでなく、都市部の、特に若者文化の中でも、ビジネス、娯楽等の場面で用いられる言葉として息づいています。

もちろん、イングランドと隣り合わせという地理的条件から、特に産業革命以降、イングランド人・英語の流入は歴史的に続いてきました。それでもウェールズ人は、あるときは偶然に助けられ、あるときは意識的に立ち回ること、ウェールズ語を維持してきました。英語帝国主義の本拠地のすぐ傍で、英語と共存しつつしなやかに生き抜いてきたウェールズ語の歴史が本書には描かれています。

イングランド、スコットランド、アイルランドと比べるとウェールズは日本ではそれほど知られていません。優れた文学作品もありますが日本では入手しづらいし、私自身まだまだ知らないことも多い。そのことがとても歯痒いです。だから、ウェールズ語、英語を研究するだけでなく、ウェールズ文学をもっと紹介したい。ウェールズ文学を原文で読めるようになりたい、またそのような人材を育てたい。私にはこれからすべき仕事がたくさんあるということを、本書を訳すことで思い知らされました。(9頁に本の紹介)

### AUTHOR

但祿と眞備 末木恭彦(駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-494-7 ¥3500	沈黙の向こう側―豊崎光一追悼集 豊崎令子 監修/岩寄誠、佐久間和男、中村裕 平山規子 編 ISBN 978-4-86110-370-4 ¥3048	滝沢克己を語る 三島淑臣(九州大学名誉教授) 監修 ISBN 978-4-86110-206-6 ¥3619	文学という名の愉楽―文芸批評理論と文学研究へのアプローチ 寒河江光徳(創価大学教授) ウラジーミル・ナボコフの考える小説・詩の芸術性について学び、ロシア、欧米、日本の文学作品を分析し批評する。カルヴィーノや村上春樹についてのコラムも。 ISBN 978-4-86110-595-1 ¥2200	キャサリン・マンズフィールド―荒地を吹き渡る風のように自由 手塚裕子(川村学園女子大学名誉教授) 祖国ニュージーランドを捨て各地を漂泊しながら、三四歳で夭折した女性作家。その波乱に満ちた生涯を克明に描き出す。 ISBN 978-4-86110-553-1 ¥3200	「女の子」という運動―ワイマール共和国末期のモダンガール 田丸理砂(フエリス大学院大学教授) ISBN 978-4-86110-443-5 ¥3000	神奈川ゆかりの作家たち 最賀進(SAGAハウス代表) ISBN 978-4-86110-462-6 二刷 ¥1500	敗戦・憂国・東京オリンピック―三島由紀夫と戦後日本 洪潤約(誠信女子大学校助教授) ISBN 978-4-86110-463-3 ¥3000	美しい汚れたアーサー・マンビールとウィクトリア朝期女性労働者の表象 吉本和弘(県立広島大学教授) ISBN 978-4-86110-442-8 ¥3000	中世英語文学―その言語・文化の特質 菊池清明(元立教大学教授) ISBN 978-4-86110-428-2 ¥4500	中世英語文学Ⅱ―The Sound of Literature 菊池清明(元立教大学教授) ISBN 978-4-86110-488-6 ¥7500	秘密のフレイガン―戦後英国演劇のなかのトランス・メディア空間 大谷伴子(東京芸術大学講師) ISBN 978-4-86110-448-0 二刷 ¥2700	マーガレット・オブ・ヨークの「世紀の結婚」―英国史劇とブルゴニニコ公園 大谷伴子 ISBN 978-4-86110-419-0 二刷 ¥2700	交錯する戦争の記憶―占領空間の文学 黄益九(在日コリアン研究所) ISBN 978-4-86110-422-0 ¥3300	名譽革命とイギリス文学―新しい言説空間の誕生 富樫剛(フエリス大学院大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-412-1 ¥3000	シモーニ・エリオットの異文化世界 高野秀夫(駒澤大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-395-7 ¥3333	トルストイと生きる 藤沼貴(早稲田大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-385-8 ¥4762	戸籍の謎と丸谷才一 ソーントン不破直子(日本女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-381-0 ¥1800	乱歩彷徨―なぜ読み継がれるのか 紀田順一郎(評論家・作家) ISBN 978-4-86110-284-4 二刷 ¥1905	超える実存―人間の存在構造と言語宇宙 棚次正和(京都府立医科大学教授) ISBN 978-4-86110-391-9 ¥4500	河合樂治郎の社会思想体系―マルクス主義とファシズムを超えて 青木育志(研究者) ISBN 978-4-86110-272-1 ¥3800	河合樂治郎 教養主義者・河合樂治郎 青木育志(研究者) ISBN 978-4-86110-320-9 ¥3000	対話論神学の地平―私の巡礼のなかから 延原時行(元敬和学園大学教授) ISBN 4-86110-081-X ¥4286	犠牲と身代わり―記憶できないものをめぐって 長田陽一(京都光華女子大学教授) ISBN 978-4-86110-275-2 ¥2200	心理臨床と脱構築の経験―(他者)をめぐって 長田陽一(京都光華女子大学教授) ISBN 978-4-86110-345-2 ¥2400	小林秀雄とウィットゲンシュタイン 中村昇(中央大学教授) ISBN 978-4-86110-106-9 ¥2500	仮説法の倫理学―ホー・バース・ハイテッカー 村上隆夫(群馬大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-309-4 ¥5600	異教の完成者―史的イエスをめぐる謎 波多野直人(武蔵大学特任教授) ISBN 978-4-86110-351-3 ¥3500	信仰の美学 阿部仲麻呂(サリンソ会司祭) ISBN 4-86110-028-3 ¥9500	茶の本 岡倉天心著/ソーントン不破直子(日本女子大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-191-5 ¥1300	聖書における愛―イエスの愛とパウロの愛 高見伊三男(牧師/名古屋学院大学教授) ISBN 978-4-86110-287-5 ¥2200	風についての省察―絶対無の息づかいをもとめて 松山康國(関西学院大学名誉教授) ISBN 4-921146-85-3 ¥3333	大拙 松丸壽雄(獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-347-6 ¥4000	直接知の探求―西田・西谷・ハイテッカー・大拙 松丸壽雄(獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-347-6 ¥4000	新しい国家―海辺の別荘で教養と信仰と哲学を語り合う W・H・マロックス著/澤井勇訳 ISBN 978-4-86110-319-3 ¥2800	死生学―死の隠蔽から自己確信へ 岩崎大(東洋大学研究助手) ISBN 978-4-86110-438-1 ¥3982	虚構の形而上学―「ある」と「ない」とのあいだで 中村靖子(名古屋大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-436-7 ¥3500	カルトルとマルクスⅡ 北見秀司(津田塾大学教授) ISBN 978-4-86110-213-4 / ISBN 978-4-86110-214-1 各巻 ¥3333	【新版】待つしかないか。―身体と哲学をめぐって 木田元(哲学者)・竹内敏晴(演出家) ISBN 978-4-86110-420-6 ¥1800	哲学の挑戦 西日本哲学学会 編 ISBN 978-4-86110-335-3 ¥2800
---	---	--	---	--	---	--	---	---	--	--	---	---	---	---	--	---	--	---	--	---	--	---	---	---	---	---	--	---	---	--	---	---	---	---	--	---	--	--	--

- 作品は「作者」を語る——アラビアン・ナイトから丸谷才一まで ソートン不破直子・内山加奈枝 編著 ISBN 978-4-86110-292-9 ¥2857
- 朝鮮神話の源流——「ハル公主神話」と「タンクン神話」を巡って 金香淑(元白川大学准教授) ISBN 978-4-86110-313-1 ¥4500
- イギリス イメージ横断——表象と文学 要田圭治・田原光広・吉本和弘 編 ISBN 978-4-86110-278-3 ¥3333
- 永井荷風 ソライズムの射程——初期作品をめぐって 林信蔵(立命館大学特別研究員) ISBN 978-4-86110-222-6 ¥3619
- 名刀中条スバハババン!!! 中条赤平(学習院大学教授) ISBN 4-921146-90-X ¥2800
- アントニオ・タブッキ 反復の詩学 花本知子(京都外国語大学准教授) ISBN 978-4-86110-358-2 ¥3000
- Beowulf 橋本修一(千葉工業大学教授) ISBN 4-86110-060-7 ¥2000
- カズオ・イシグロ 〈日本〉と〈イギリス〉の間から 莊中孝之(京都外国語短期大学教授) ISBN 978-4-86110-255-4 三刷 ¥3000
- 『ベオウルフ』とその周辺——忍足欣四郎先生追悼論文集 唐澤一友(立教大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-190-8 ¥8000
- なぜ男は笹野親子を畏れるのか 海老原暁子(元立教女学院短期大学教授) ISBN 978-4-86110-318-6 ¥2381
- 樋口一葉—物語論・言語行爲論・ジェンダー 笹川洋子(神戸親和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-348-3 ¥4000
- ほくろの交遊録 岡井隆(歌人) ISBN 4-86110-044-5 ¥2800
- ラファディオ・ハーンとジェイムズ・トムソン——『四季』をめぐる 先川暢郎(拓殖大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-285-1 ¥3333
- 新版文学にひそむ十字架 小出龍太郎(元大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 978-4-86110-354-4 ¥2800
- 小出龍太郎と谷崎潤一郎—小説『夢喰ふ虫』の真相 小出龍太郎・明里千草・荒川朋子 ISBN 4-86110-084-4 ¥2500
- 小出龍太郎—光の憂鬱 小出龍太郎(元大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 4-921146-34-9 ¥2200

- ちよつと、教養——20代女性のための芸術案内 小出龍太郎(元大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 4-86110-008-9 ¥1600
- 民話の森の歩きかた 樋口淳(専修大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-273-8 ¥2381
- テクストの思考——日本近現代文学を読む 林浩平(詩人・恵泉女学院大学特任教授) ISBN 978-4-86110-253-0 ¥3048
- ヘンリー・フィールディング 澤田孝史(東京国際大学教授) ISBN 978-4-86110-231-8 ¥4286
- オーウェル文学の源流を求めて——その想像的創造力の源泉 高橋鍾(宮崎大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-170-0 ¥2800
- Essays on Dickens, Forster, Austen: A Japanese Reader's Appreciation 藤田永祐(獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-388-9 ¥3000
- ディケンズ、フォスター、オースティン——いま生きるイギリス小説 藤田永祐(獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-154-0 ¥2200
- 平家物語—装置としての古典 高木信(相模女子大学教授) ISBN 978-4-86110-139-7 ¥4600
- 英詩に魅せられ—エリオットからラーキンまで 堀田三郎・犬飼誠 共編 ISBN 978-4-86110-305-6 ¥2476
- Decoding Paul Muldoon: Poetics and Politics 奥田良一(東海大学教授) ISBN 978-4-86110-176-2 ¥2500
- 荒野へ—鮎川信夫と「新領土」(I) 中井農(同志社大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-096-3 ¥9333
- こんにちはエヘホー——二つの短編を訪ねる 村手義治(元創価大学教授) 編訳 ISBN 978-4-86110-279-0 ¥2000
- 龍の星霜——異端の劇作家青江舜一郎 大嶋拓(映画作家) ISBN 978-4-86110-274-5 ¥1500
- 鷗外・漱石—フレイカリスムの起源 大石直記(明治大学教授) ISBN 978-4-86110-175-5 ¥5600

# 文学



## 古英語叙事詩 『ベオウルフ』

クレーバー 第4版対訳

吉見昭徳(明治学院大学名誉教授) 訳

最新の校訂を経た原文を底本とし、精密な考証にもとづき翻訳。入念に彫琢された日本語で読む、最新の英和対訳『ベオウルフ』。「フィン挿話」に関連する断片詩「フィンズブルグの戦い」も併載。

A5判上製・二六二頁 定価(4000円+税) ISBN 978-4-86110-572-2

## 鐘の音が響く カフェで

田村奈保子(福島大学教授) 訳

文学好きの母の望みは『僕』が作家になること。幸いに満ちた少年時代に訪れた悲しい別れまでの日々が、言葉によって瑞々しく蘇る。「失われた時を求めて」を換骨奪胎し、人生と文学への愛を謳う。

四六判並製・フランス装・三四頁 定価(2500円+税) ISBN 978-4-86110-606-4



## トロイア戦争の三人の英雄たち

川井万里子(東京経済大学名誉教授) 訳

「足の速い」速攻型のアキレウス、「ギリシヤ人の護りの盾」アイアス、そして「工夫に富む」策略家オデッセウス。ホメロス『イリアス』などをもとに再構成された、一気に読めるトロイア戦争の物語。

四六判並製・二八八頁 定価(2500円+税) ISBN 978-4-86110-613-2



# 翻訳ピンチ!

中条省平 SHOHEI CHUJO

22

ママんか、かあちゃんか

NHKのEテレの「100分de名著」という番組でカミュの『ペスト』を解説し、NHK出版から番組のテキストも出しました。けっこう反響があり、この番組のプロデューサーである秋満吉彦さんに誘われて、カミュの『異邦人』についてのトークをすることにになりました。お相手は、「中央公論」や「考える人」の編集長を歴任し、現在は「ほぼ日」の学校長を務めている河野通和さんです。その打ち合わせで河野さんから、面白い(というより恐ろしい?)話を聞きました。

2015年につかこうへの『熱海殺人事件』が数十年ぶりに風間杜夫、平田満の主演で再演され、河野さんが見に行ったところ、この作品に大きな改変が施されていたというのです。

『熱海殺人事件』は、名刑事・くわえ煙草の伝兵衛が、凡庸な人殺しを犯した田舎出身の工具・大山金太郎を、立派な殺人犯にすべく奮闘するという話です。そのクライマックスの殺人を自白させる場面で、伝兵衛の部下の刑事・熊田留吉はなんとカミュの『異邦人』を引用するのです。

「場所は熱海だ。熱い砂、青い海。ま

ぶしい太陽、太陽がまぶしすぎる。…今日、ママんが死んだ。そうだ、大山金太郎、お前はヨーロッパの不条理を超えるんだ。今日からお前を大山ムルソーと呼ぼう。ママん!

すかさず伝兵衛が茶々を入れます。

「金坊!」

「かあちゃん!」と思わず返事してしまう大山金太郎。

「ほら見ろ、『かあちゃん』じゃねえか」と伝兵衛は毒づきます。「お茶漬けすすって、タクアンばりばりかじって、どこがママんなんだよ、田舎者」

『熱海殺人事件』のラストでも、伝兵衛の最後の長い決めゼリフのなかで、『異邦人』の主人公ムルソーによる「太陽がまぶしすぎる」がゆえの殺人という主題はくり返されます。ところが、2015年の舞台では……次回に続く。

(『熱海殺人事件』の引用はすべて筆者の記憶によるものです) (仏文学者)



イラスト: たけなみゆうこ

- バルザック王国の裏庭から——『リュジエリーの秘密』と他の作品集 宇多直久(元滋賀大学講師) 編訳 ISBN 978-4-86110-544-9 ¥2500
- 中世英語文学III 中世イギリスロマンス ガウエイン卿と緑の騎士 菊池清明(元立教大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-579-1 ¥3400
- 画文集 旅の貼り絵 安田彰(元聖徳大学教授) ISBN 978-4-86110-458-9 ¥1750
- 八月の瓜—母へ 彭学明著/立松昇一(拓殖大学教授)・舟山優士(翻訳家) 訳 中国少数民族・土家族の作家による自伝的小説。文化大革命、大飢饉:過酷な生活の中で四度結婚し、子どもたちを育てた母の愛と執念。本邦初訳! ISBN 978-4-86110-520-3 ¥2500
- 鎌倉三猫物語 ソートン不破直子(日本女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-430-5 ¥1500
- 鎌倉三猫いまふたたび ソートン不破直子(日本女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-515-9 ¥1500
- クリスマス・キャロル チャールズ・ディケンズ著/井原慶一郎(鹿児島大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-474-9 ¥1500
- スウェーデン民話名作集 数下統一訳 Ⅲ ISBN 978-4-86110-339-1 各巻 ¥1905 Ⅳ ISBN 978-4-86110-368-1
- 原典対照『ベオウルフ』読解 長谷川寛(元日本大学教授) ISBN 978-4-86110-230-1 ¥9000
- 一人の詩人と二人の画家—D・H・ロレンスとニーマンコク・メリル著/木村公一・倉田雅美・伊藤淳子 訳 ISBN 978-4-86110-498-5 ¥4100
- いないも同然だった男 パトリス・ルコント著/桑原隆行(福岡大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-458-9 二刷 ¥1800
- 愉しみは最後に パトリス・ルコント、ダヴィッド・デカンザイル著/桑原隆行(福岡大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-418-3 ¥1800



立教大学人文叢書

- 1 人文資料学の現在―浦野聡他 編著 ISBN 4-86110-063-1 ¥2200
2 文学の基礎レッスン 後藤和彦 編著 ISBN 4-86110-087-9 ¥2200
3 肖像と個性 藤巻明他 編著 ISBN 978-4-86110-138-0 ¥2200
4 人文資料学の現在II 菅谷憲興 編 ISBN 978-4-86110-163-2 ¥2200
5 書簡を読む 桑瀬章一郎 編 ISBN 978-4-86110-194-6 ¥2200
古代文字史料の中心性と周縁性 立教大学東アジア地域環境問題研究所／深津行徳・浦野聡 編著 ISBN 4-86110-067-4 ¥3500
瀬戸内、鳥瞰の旅―風景の奥を読む 伊藤松雄 (四国学院大学教授) ISBN 978-4-86110-360-5 ¥1800
おはあちゃん! 豚となつて木に登る 外川洋子 ISBN 978-4-86110-398-8 ¥1500
富士山学への招待―NPOが富士山と地域を救う 渡辺豊博 (元都留文科大教授) ISBN 978-4-86110-229-5 ¥1500
失敗しないNPO―グラウンドワーク三島の20年とイギリスに学ぶ 渡辺豊博 (元都留文科大教授) 編著 ISBN 978-4-86110-353-7 ¥1500
三島のチャンボさん―ミスター・グラウンドワーク 渡辺豊博 (元都留文科大教授) ISBN 978-4-86110-233-2 ¥1429
世界遺産の自然と暮らし 今井一郎 (関西学院大学教授) ISBN 4-921146-98-5 ¥1905

横浜市立大学新叢書



- 世界のミュージカル・日本のミュージカル 岩崎徹 (横浜市立大学准教授)・渡辺諒 (早稲田大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-570-8 ¥2500
資料を見て考えるホロコーストの歴史 ヴァンゼー会議記念館 編著／山根徹也・清水雅大 訳 ISBN 978-4-86110-461-9 ¥2000
韓国の財政と地方財政 鞠重鎬 (横浜市立大学教授) ISBN 978-4-86110-460-2 ¥3000
レリギオ―《宗教》の起源と変容 三上真司 (横浜市立大学教授) ISBN 978-4-86110-452-7 ¥3000
日中間戦争と中国人文学者―郁達夫、柯靈、陸蠡らをもつて 鈴木正夫 (横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-411-4 ¥3500
天狼俳句の英訳―誓子・敏雄・綾子 古平隆 (横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-384-1 ¥3000
過去の再演を越えて―精神的分析的ロール・プレイング 川幡政道 (横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-374-2 ¥3000
読んで愉しむイギリス文学史入門 白井義昭 (横浜市立大学名誉教授、立正大学教授) ISBN 978-4-86110-372-8 三刷 ¥1500
普仏戦争―籠城のバリ132日 松井道昭 (横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-373-5 ¥3000
英和の森の植物たち―感じる、遊ぶ、食べる 中池敏之・川崎末美 (東洋英和女学院大学教授) ISBN 978-4-86110-321-6 ¥2600
コハタンの繁殖―絶滅危惧種保存への挑戦 石川文也 (日本鳥学会会員) ISBN 978-4-86110-195-3 ¥2800

東洋英和女学院大学 社会科学研究叢書

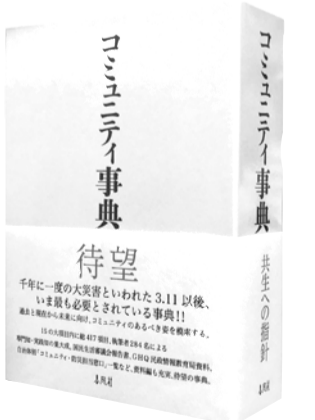


- 世界のメディア グローバル時代における多様性 小寺敦之 (東洋英和女学院大学准教授) 編 アメリカ、中国、オーストラリアからカタララオス、韓国まで。世界各国の新聞、テレビ、インターネットなどにおける多様な報道の在り方を紹介・解説。 ISBN 978-4-86110-591-3 ¥2500
アジアの国際関係 福田保 (東洋英和女学院大学准教授) 編 中国、北朝鮮、台湾、インドなど、覇権国と追従国との間に見られる「連合と抵抗の力学」を探り、アジアにおける秩序の移行と変容の諸相を明らかにする。 ISBN 978-4-86110-590-6 ¥2500
新時代のやさしいトラウマ治療―NLP、マインドフルネス・トレーニング、EFT、EMDR、動作法への招待 岡本浩一・角藤比呂志 編 最新の臨床心理学の成果をもとに、PTSDに対するトラウマ治療の手法を誰でも模倣できる形で提示・実演。 ISBN 978-4-86110-545-6 ¥2500
EU統合を読む―現代ヨーロッパを理解するための基礎 小久保康之 編 ISBN 978-4-86110-483-1 ¥2500
ネット空間を変えるモバイル社会 東洋英和女学院大学メディア・コミュニケーション研究所 編 ISBN 978-4-86110-444-2 ¥2500
グローバルゼーションとリスク社会 岡本浩一・パトリシア・スイッヘル 編 ISBN 978-4-86110-403-9 ¥2500

心理

総記・辞典・事典

- 自由と尊厳を超えて B・F・スキナー 著／山形浩生 訳 ISBN 978-4-86110-341-4 二刷 ¥2381
デイケアの心理学 浮田徹嗣 (横浜市立大学准教授) ISBN 978-4-86110-306-3 ¥3000
環境心理学―環境デザインへのバーステクトイ 植光 (実践女子大学教授) ISBN 4-86110-010-0 二版一刷 ¥2286
ロール・プレイング―即興劇による人間の探求と治療 川幡政道 (横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-155-7 ¥2381
見捨てられる不安―家族と社会の現在 川幡政道 (横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-158-8 ¥2200
コミュニティ事典 共生への期待 伊藤守・小泉秀樹・三本松政之・似田眞香門・橋本和孝・長谷部弘・日高昭夫・吉原直樹 編 コミュニティの過去・現在・未来―千年に一度の大災害といわれた3・11以後、いま最も必要とされている事典!! 一五の大項目に総四一七項目、執筆者一八四名による専門知・実践知の集大成。 A5判上製函入・二四六頁 定価(2000円+税) ISBN 978-4-86110-538-8



- 待望 コミュニティ事典 千々に一度の大災害といわれた3.11以後、いま最も必要とされている事典!! 一五の大項目に総四一七項目、執筆者一八四名による専門知・実践知の集大成。 A5判上製函入・二四六頁 定価(2000円+税) ISBN 978-4-86110-538-8
フランス語名詞・動詞連語辞典 石川三千夫 (桜美林大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-536-4 ¥3500
ラジカル雑学事典 田所清克 (京都外国語大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-496-1 ¥5000
ニュージャーナル下科事典 フーゼーランド学会 編 ISBN 978-4-86110-111-3 ¥9333
ダンテ神曲原典読解語源辞典《地獄》《煉獄》《天国》 福島治 ISBN 4-921146-77-2 / 4-921146-78-0 / 4-921146-79-9 各巻 ¥46000
現代日本語コンゴリ語辞典 橋本勝 (大阪大学教授) / E・プレジヤツ ISBN 4-921146-33-0 ¥15000
日本の英語辞書と編纂者 愛知大学文学叢書XII 早川勇 (愛知大学名誉教授) ISBN 4-86110-064-X ¥6600

阿部公彦 英文学にデコピン

9 小説の寒暖―プルーストとジョージ・エリオット

立教大学の坂本浩也さんが「プルーストを読破する@立教」という連続講座を主催している。8月にここで話をしたら、プルーストが実はイギリス小説の大ファンだったと逆に教わった。愛読したのはトマス・ハーディからジョージ・エリオットまで幅広い作家である。え？ プルーストがエリオットを読むの？と驚く人もいるだろう。でも、たしかに両者には通ずるものがある。エリオット流の愛と情念と怨恨の世界は、プルーストの粘つく感情世界から遠くはない。どちらも息の長い文章で、人間心理の奥へ奥へと分け入っていく侵入感もある。しかし、決定的な違いがある。エリオットには温度がある。筋書きはメロドラマ風で劇的で、共感や愛や善意が充満し、人によっては「暑苦しい」「鬱陶しい」とさえ感じるほど。対してプルーストは、いかにも花粉症に苦しめられた虚弱体質の人らしく温度が低い。プロットは脱線の連続。劇的盛り上がりともあまり縁がない。うすら寒いのだ。プルーストの主人公のこだわりは、熱気として湯気を立てることなく、陰気に内にこもる。気になる人がいても、こっそりストーカーし

たり、家に帰ってから一人でしゃべり方を真似して喜んだりしている(ほとんどヘンタイだ)。つまり、共感よりも距離感、愛よりも執着、善意よりも悪意。なぜプルーストは、これほど自分と体質の違うエリオットに惹かれたのだろう。暖と寒。この対立はむしろヒントになるかもしれない。「寒」の人だからこそ、「暖」の作家に惹かれるのではないか。たとえば、プルーストが泣くほど感動したというエリオットの『フロス川の水車小屋』の冒頭部は、"A wide plain, where the broadening Floss hurries on between its green banks to the sea, and the loving tide, rushing to meet it, checks its passage with an impetuous embrace..."と始まる。いみじくも「抱擁する(embrace)」という語が使われている。雄大さを分厚い包容力が支えているのだ。『フロス川の水車小屋』はエリオット作品の中でも自伝性が強い。マギーの人生の切なさにも、その運命を語るナラティブにも、エリオットの温度が浸透する。体温の低いプルーストは、まるで暖炉の火に手をかざすようにしてその温もりを味わったのではないだろうか。(英文学者)





**ウェールズ語の歴史**

ジャネット・デイヴィス 著  
小池剛史 (天東文化大学准教授) 訳  
英語の圧倒的な影響のもとで力強くしなやかに生き抜いてきたウェールズ語の歴史。現代の使用状況や発音・文法の簡単な紹介も。  
四六判並製・三三頁 定価(2700円+税)  
ISBN 978-4-86110-608-8

視覚スキーマを用いた意味拡張機づけの分析  
— 完遂を表す複合動詞「〜き〜ぬ〜ぬ〜」と「おす」の場合 栗田奈美 (拓殖大学特任講師)  
日本語学習者にとっては習得しにくい複合動詞。完遂を意味する複合動詞の各特徴と使い分けの様相を、認知言語学の新たなアプローチから解明。 ISBN 978-4-86110-564-7 ¥5500

日本語のポライトネス再考 — 発語行為・発語媒介行為・相互行為 笹川洋子 (神戸親和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-502-9 ¥3500

ベトナム語母語話者のための日本語教育 松田真希子 (金沢大学准教授) ISBN 978-4-86110-491-6 ¥3600

英語と開発 — グローバル化時代の言語政策と教育 F・サージント、E・J・アーリング編 松原好次 監訳 ISBN 978-4-86110-471-8 ¥3500

英語の名詞をきわめる — 可算名詞と不可算名詞の使い分け 小林悦雄 (立教大学教授) ISBN 978-4-86110-470-1 ¥1800

英語学 — 現代英語をより深く知るために 菊池清明 (元立教大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-513-5 ¥1400

英文法は役に立つ! — 英語をもっと深く知りたい人のために 古田直肇 (東洋大学准教授) ISBN 978-4-86110-434-3 ¥2000

第二言語学習と個性 津田塾大学言語文化研究所言語学習の個性研究グループ編 ISBN 978-4-86110-065-9 ¥1600

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis 鈴木憲夫 ISBN 978-4-86110-114-4 ¥7619

Experimental Studies on Prosodic Features in Second Language Acquisition 伊庭緑 (甲南大学教授) ISBN 978-4-86110-235-6 ¥4600



**教育**

Languages and Language Policies in Insular Southeast Asia 河原俊昭 (元京都光華女子大学教授) ISBN 4-921146-64-0 ¥5950

はじめての論文 — 語用論的な視点と調査・研究 田中典子 (清泉女子大学教授) ISBN 4-86110-349-0 ¥1800

The Pragmatics of Uncertainty 田中典子 (清泉女子大学教授) ISBN 4-921146-22-5 ¥3333

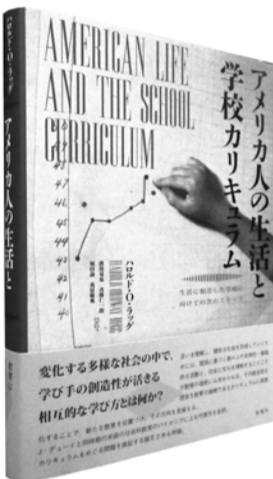
フランクティクス・ワークシッフ — 身のまわりの言葉を語用論的に見る 田中典子 (清泉女子大学教授) ISBN 4-86110-073-9 四刷 ¥1800

L'interaction Exolingue : Analyse de Phénomènes Metalinguistiques 石川文也 (立教大学教授) ISBN 4-921146-59-4 ¥8476

「俗語」から「国家語」へ — スペイン黄金世紀の言語思想史 岡本信昭 (京都外国語大学教授) ISBN 978-4-86110-291-2 ¥3333

**アメリカ人の生活と学校カリキュラム**

アメリカ人の生活と学校カリキュラム 渡部電也 著  
生活に根差した学校に向けての次のステップ  
ハロルド・O・ラック (元コロンビア大学教授) 著  
渡部電也 (東京学芸大学准教授)・斉藤仁一朗 (東海大学講師)・堀田諭 (東京大学特任研究員)・桑原敏典 (岡山大学教授) 訳  
変化する多様な社会の中で、学び手の創造性が活かされる相互的な学び方とは何か。J・デューイと同時期の社会科教育の先駆者の代表作。初訳。  
A5判上製・五〇二頁 定価(6000円+税)  
ISBN 978-4-86110-602-6 ¥6000



歴史的思考 — その不自然な行為 サム・ワインバーク 著 / 渡部電也 訳 (東京学芸大学准教授) 監訳 ISBN 978-4-86110-525-8 ¥6200

世界初市民性教育の国家規模カリキュラム — 20世紀初頭アメリカ N.E.A. 社会科委員会報告書の事例から 渡部電也 編訳 ISBN 978-4-86110-490-9 ¥4722

教師のゲートキーピング — 主体的な学習者を生む社会科カリキュラムに向けて ステイプン・J・ソーントン 著 / 渡部電也 他 訳 ISBN 978-4-86110-445-9 ¥6000

「居場所がない」とはどのような経験か — 「居場所がない」とはどのような経験か — いじめや不登校、少年事件、「普通」でいることの生きづらさをめぐる若者たちの語りを手がかりに、「居場所」の意味を探究する。 ISBN 978-4-86110-566-1 ¥2315

教育方法改革の理論 助川晃洋 (国士館大学教授) ISBN 978-4-86110-578-4 ¥2000

子どもと「内面」とは何か — 言語ゲームから見た他者理解とコミュニケーション 杉田浩崇 (愛媛大学准教授) ISBN 978-4-86110-556-2 ¥3700

絵本から「子ども福祉」を考える 青木文美 (愛知淑徳大学准教授) 編 ISBN 978-4-86110-514-2 ¥3400

現代の子どもはどんな環境におかれ、どんな問題をかかえているのか。絵本の世界から10のテーマを切り口に「子ども福祉」の視点を身につける、類例のない解説書。 ISBN 978-4-86110-514-2 ¥3400

**YOKOHAMA**

**この味がいい**

福家  
〒231-0064 神奈川県横浜市中区野毛町2-97  
TEL 045-231-4896



白い暖簾に白い幟。昭和の風情ただよう野毛・仲通りの一角に、ひとときわ粋な店がある。木の引き戸を開けて席に着くと、大女将・酒井玖枝さんがそっとお茶を差し出した。看板メニューはふぐ・うなぎ・どじょう。ランチはうなぎ丼が2,300円、柳川定食が1,260円、八幡丼が750円といたってお手頃な値段。中でも土鍋でどじょうを煮込んだ柳川は、とろりとした半熟卵がどじょうを包み、牛蒡の香りが鼻に抜ける人気の一品。ほどよく甘い出し汁が体に染みる。

昭和6年創業の老舗だ。初代店主は銀行マンだったが、釣りの趣味が高じて板前を雇い、尾上町に店を構えた。戦後の再開発で野毛町3丁目にビルを建てたが、平成17年には現在の場所へ。創業当初はふぐのみを扱っていた。戦後、夏に出せるものを始めたのがうなぎ。常連客だった津田文吾氏 (のちの神奈川県知事) のすすめで、どじょうもメニューに加わった。「一生勉強ですからね、『色々教えてください』ってお客さまに申し上げるの」と玖枝さん。3代目店主の芳隆さんは、先代の父を手伝いながら味を覚え、改良を重ねてきた。

ふぐの旬は冬。木枯らしが吹く頃には、白子も美味しくなる。うなぎのおすすめは、店主が「最近進化した」と自負する白焼きときもわさ。どじょうは「まる」と「ひらき」を選べるが、どちらが美味しいかと客に訊かれたら「お好みで」。お酒に合う肴の品ぞろえも豊富だ。値段は3ケタに抑えるのがこだわり。肴を目当てに来る人も多い。最近の野毛は若者が増え、大人のたしなみを知る人ばかりではない。店をはしごして飲み歩くことを通称「野毛飲み」と呼ぶが、「店との色々な付き合いが『野毛飲み』の醍醐味なんじゃないかなあ」と芳隆さんは言う。

怡玖枝さんの元気の源は、お客さんとの会話。病気も怪我もしたが「楽天家なの」と笑って毎日店へ出る。そんな怡玖枝さんを、若女将がさりげなく気遣う。老舗・福家の大女将と息子さん夫婦が「この味でよかったら」と差し出す料理は、「この味がいい」と訪れる客、そして家族の信頼関係の賜物。福家の福はふぐのふく、また幸福の福だ。(松)

現代の学校を読み解く―学校の現在地と教育の未来

末松裕基（東京大学大学院准教授）編著  
ISBN 978-4-86110-504-3 二刷 ¥2300

留学生の見た漢字の世界―漢字学習への創造的アプローチ 林さん子・関麻由美・齋藤伸子編著 ISBN 978-4-86110-568-5 ¥1852

人生の調律師たち―動的ドラマトゥルギーの展開 藤川信夫（大阪大学教授）編著 ISBN 978-4-86110-540-1 ¥4500

教育実践の昭和 横須賀薫（元十文字学園女子大学学長） ISBN 978-4-86110-512-8 ¥2000

日本統治下台湾の教育認識―書房・公学校を中心に 吳宏明（京都精華大学名誉教授） ISBN 978-4-86110-505-0 ¥3500

キリスト教人権教育論―個人の尊厳を見つめて 吉岡良昌（元東洋英和女学院大学教授） ISBN 978-4-86110-417-6 ¥2300

いの子を育て教育 吉岡良昌（元東洋英和女学院大学教授）・大川洋（国際基督教大学上級准教授） ISBN 978-4-86110-143-4 ¥2200

アメリカ教育福祉社会史序説―レジディング・ティーチャーとその時代 倉石一郎（京都大学教授） ISBN 978-4-86110-416-9 二刷 ¥3000

物語が始まるとき―共創教育の現場から 青木幸子（昭和女子大学准教授） ISBN 978-4-86110-415-2 ¥1800

ワークショップで学ぶ 生徒指導・進路指導の理論と方法 林尚示・服部伴文・村木晃 ISBN 978-4-86110-355-1 ¥2000

日中教育対話―III 凱声／山崎高哉 共編 ISBN 978-4-86110-159-5 ¥3200 / ISBN 978-4-86110-220-2 ¥2800 / ISBN 978-4-86110-248-6 ¥3200

私はどのような教育実践をめざすのか―言語教育とAIディティ 細川英雄・鄭京姫 編 ISBN 978-4-86110-379-7 ¥2800

体当たり校長の学校づくり―8年間のニューズレター 横山芳春（豊見城市立座間小学校校長） ISBN 978-4-86110-340-7 ¥2381

子どもの心にとくとく授業―三重県桑名市立藤が丘小学校における六年 伊藤新司編著 ISBN 978-4-86110-326-1 ¥2381

海峡を越えて―京畿高等女子学校の思い出 太田孝子（岐阜大学教授） ISBN 978-4-86110-157-1 ¥2200

母の愛が奇跡を生む―発達遅れに挑むルーニング・ホックス学習法 立川勲編 ISBN 978-4-86110-098-7 ¥1500

戦前感化・教護実践史 佐々木光郎／藤原正範 編 ISBN 4-921146-18-7 ¥4800

昭和戦前期の少年教護実践史（上・下） 佐々木光郎 上 ISBN 978-4-86110-330-8 下 ISBN 978-4-86110-331-5 各巻 ¥3500

新版 生涯学習と地域社会教育 末本誠（茨川短期大学学長）／松田武雄（中村学園大学教授）編 ISBN 978-4-86110-234-9 ¥2476

学びを開くNIE―新聞を使ってどう教えるか 影山清四郎（横浜国立大学名誉教授）編著 ISBN 4-86110-080-1 ¥2381

実感から関係化へ―ある重度重複障害者と関わりつ 遠藤司（駒澤大学教授） ISBN 978-4-86110-237-0 ¥2381

幼児キャンブ―雪の体験 山梨幼児野外教育研究会 監修 ISBN 4-921146-40-3 ¥1905

先生、いの子のことを教えて―引き揚げから養護教師へ 引地ユリ 編著 ISBN 978-4-86110-269-1 ¥952

# ポストモダンの処方箋

## 22 ポリティカル・コレクトネスの陥穽 白井聡

ポストモダニズムの政治的成果の筆頭として数え上げられるのは、諸種のマイノリティに対する社会的認知の向上である。近代主義の想定する「普遍的人間像」が「男性・白人・異性愛者」の規範性を前提しており、そこからずれた存在を暗黙のうちに「劣った存在」と定義しているという批判は、今日「ポリティカル・コレクトネス」（PC）として定着した。

しかし、現在立ち現れているのは、言わねば、ポストモダン政治の奇妙な行き詰まりである。例えば、先日の女子テニス全米オープン決勝で起きたセレーナ・ウィリアムズの事件は、トランプ政権登場の理由を説明してくれるもののようには感じられなかった。世界中のメディアが女王にふさわしくない品格無き振舞いを批判するなかで、アメリカのメディアは、特に事件発生当初、奇妙なほどセレーナに同情的だった。なるほど、この「空気」がPCへの嫌悪感をもたらした、反PCを標榜するトランプに力を与えたのであろう。

他方、本日（9月20日）目にしたニュースによれば、アマゾン社の日本法人は、目黒に新オフィスオープンしたが、そのウリは従業員の「多様性」に配慮して、礼拝室、搾乳室、ジェンダーフリーのトイレ等を設けていることにあるのだそう。社会正義の実現にかたくも熱心なアマゾンは、同時に、倉庫労働者の激しい搾

取、宅配業者の使い倒し、徴税逃れ、零細版元への高圧的態度等でよく知られる。即座に思い出したのは、広告代理店出身の渋谷区長が、同性パートナーシップ条例を全国で初めて提案した一方で、ホームレス排除を強硬に推進したことである。「虐げられた人々に優しいのではなかったのか」という批判の声が上がったが、実際にはこの二面性は全く矛盾しない。渋谷区長は、「優秀でお洒落でイケている性的マイノリティ」を同区に呼び込んで都市の価値を上げようとするなかで、目障りな路上生活者は排除したいのだ。

かくして、いまやあらゆる種類の多様性を肯定することが政治的に正しいとされているが、「貧乏でみすばらしい」ことだけは認められないのである。アマゾンも渋谷区も同一の原理に基づいているのであって、資本蓄積に貢献する「多様性」のみが肯定・称賛されるのであり、その障害となるあらゆる「貧乏臭いもの」は論外なのである。

ポストモダニズムの政治版たるPCは、この新自由主義的価値観の攻勢に対して全く無力だったところか、むしろそれに加勢した。トランプの標榜する反PCへの支持の一部は、この現実に対する絶望によって動機づけられたように思われる。そして、同様の現象は、日本でもこれからますます顕著になるだろう。（政治学者）

# 社会・歴史



戦前から戦後にかけて活動した社会学者・早瀬利雄の先駆的業績を紹介・解説。治安維持法における検挙、清水幾太郎との比較、横浜市政との関わりなどにも触れ、その人物と時代を描く。  
四六判上製・四〇四頁 定価（3900円＋税）  
ISBN 978-4-86110-561-6

## 社会学批判と現代

早瀬利雄の人物と学問  
内藤辰美（山形大学名誉教授）

戦前から戦後にかけて活動した社会学者・早瀬利雄の先駆的業績を紹介・解説。治安維持法における検挙、清水幾太郎との比較、横浜市政との関わりなどにも触れ、その人物と時代を描く。  
四六判上製・四〇四頁 定価（3900円＋税）  
ISBN 978-4-86110-561-6

## 基礎的自治体と町内会自治会

「行政協力制度」の歴史・現状・行方 日高昭夫（山梨学院大学教授）  
町内会自治会は、任意の住民自治組織なのか？ 地方自治システムなのか？ 自治体行政の立場から町内会自治会論を整理し、歴史統計と全国調査を駆使して行政協力制度の現況と課題を明らかにする。  
A5判上製・四四四頁 定価（4200円＋税）  
ISBN 978-4-86110-611-8



町内会自治会は、任意の住民自治組織なのか？ 地方自治システムなのか？ 自治体行政の立場から町内会自治会論を整理し、歴史統計と全国調査を駆使して行政協力制度の現況と課題を明らかにする。  
A5判上製・四四四頁 定価（4200円＋税）  
ISBN 978-4-86110-611-8



難民支援 松原好次（元電気通信大学教授、内藤裕子（翻訳者））  
ドイツメディアが伝えたこと  
二〇一五年以降のドイツにおける難民支援の実情と変遷を、新聞・ブログなど現地のメディアをもとに紹介・解説。一市民に何が出来るのかを問う。ベルリン在住の日本人ボランティアによるルポも併録。  
A5判並製・三〇六頁 定価（2700円＋税）  
ISBN 978-4-86110-607-1

ドイツメディアが伝えたこと  
二〇一五年以降のドイツにおける難民支援の実情と変遷を、新聞・ブログなど現地のメディアをもとに紹介・解説。一市民に何が出来るのかを問う。ベルリン在住の日本人ボランティアによるルポも併録。  
A5判並製・三〇六頁 定価（2700円＋税）  
ISBN 978-4-86110-607-1

海と陸の織りなす世界史―港市と内陸社会 弘末雅士（元立教大学教授）編  
古代エジプトから現代のシアトル、バンクーバーに至るまで、海域と陸域の多様な関係と人びとの交流の諸相をたどり、広域ネットワークと地域社会の成立過程を明らかにする。  
ISBN 978-4-86110-592-0 ¥3000

エネルギーと地方財政の社会学―旧産灰地と原子力関連自治体の分析 湯浅陽一（関東学院大学教授）  
石炭から石油、原子力、再生可能エネルギーへの移り変わりの中で、地方財政はいかなる問題を抱えてきたのか。  
ISBN 978-4-86110-586-9 ¥3700

スイスの謎―経済的空間的秩序 加藤幸治（国士館大学教授）  
言語・宗教・文化・制度面での「多様性」が拡がりつつあるにもかかわらず、スイスが国民国家として一体化しているのはなぜか？ その謎を経済地理学的観点から解明する。  
ISBN 978-4-86110-585-2 ¥2700

東アジアの秩序を考える―歴史・経済・言語 岩下哲典、安田震一、橋本真吾、塚越俊志、小川唯、高田誠、中川仁、濱口裕介、吉田雅子  
18世紀以降、西洋の外圧を受けながら、東アジアはどのような秩序を構築していったのか？ 中国、台湾・日本における諸相を探る。  
ISBN 978-4-86110-574-6 ¥3700

英国聖公会宣教師協会の日本伝道と函館アイヌ学校―英国人女性エニス・ヘアリングがリードが見た明治日本 田辺陽子編著／西口忠著／フリーリップ・ピリングスリー監修  
明治27年、23歳で日本に旅した女性のアルバムと旅日記を再構成。日英併記。  
ISBN 978-4-86110-580-7 ¥2600

戦後小樽の軌跡―地方都市の衰退と再生 内藤辰美（山形大学名誉教授）・佐久間美穂（川村学園女子大学准教授）  
小樽はなぜ戦後に衰退したのか？ 三〇人以上の小樽市民を取材し、地方創生の時代における国家と都市の新たなあり方を模索する。  
ISBN 978-4-86110-526-5 ¥3800

戦後小樽の軌跡―地方都市の衰退と再生 内藤辰美（山形大学名誉教授）・佐久間美穂（川村学園女子大学准教授）  
小樽はなぜ戦後に衰退したのか？ 三〇人以上の小樽市民を取材し、地方創生の時代における国家と都市の新たなあり方を模索する。  
ISBN 978-4-86110-526-5 ¥3800



